

神戸
市会議員ひらの

平野たつじ

— 神戸市会報告 —

発行所

自由民主党神戸市会議員団・無所属の会
神戸市中央区加納町6丁目5-1
電話 331-8181 内線 7060

兵庫区に病児保育、ついに実現へ!

長年要望してきた兵庫区の病児保育が、2025年度予算で具体化へ。行政と医師会が連携し、2026年4月には詳細が示される予定です。働く保護者に安心を届けます。

(詳細は、P3へ)



病児保育(神戸市HPより)



9月議会本会議にて

市バス・地下鉄もっと便利に!



市バス路線の改善や新ルートの検討に加え、運転手の休憩や点呼の効率化を提案しました。特に、地下鉄駅を活用して運転手が交代・休憩できる仕組みを導入すれば、車両の営業に使える時間を増やし、効率的な運行が可能となります。さらに地下鉄駅空間を有効活用することで、市民負担を増やすずに利便性と経営改善につなげる施策を求めています。

(詳細は、P2へ)

救急搬送がもっとスムーズに!

救急情報を複数病院へ同時配信する新システムを2026年度導入予定。搬送先決定の時間を短縮し、救命率アップと現場負担の軽減につながります。命を守る改革。

(詳細は、P3へ)



企業と地域でつくる、若者の未来



企業と地域が一緒になって子どもたちの学びや交流を応援。さらにインターンシップを充実させ、学生に地元での活躍の場を広げ、若者定着と雇用拡大をめざします。

(詳細は、P4へ)

市バス・地下鉄もつと便利に! (交通局質疑:2025年9月19日)

■ 1. 兵庫・長田エリアの市バス路線再編から9系統ルートの通行禁止側道を活用した新ルートチャレンジ

令和6年度、兵庫・長田エリアで大規模な路線再編が行われ、結果、収支は約9,000万円改善し、運行効率も向上しましたが、依然として全体で約5億円の赤字です。

私は、再編後の地元のご意見やご要望を受け、一つの案として、9系統のルートについて提案しました。2024年4月の路線再編で9系統の湊川公園交差点からの北上ルートが廃止され、兵庫区役所や東山商店街へのアクセスが不便になりました。そこで、**東山町の側道(ルート図ご参照)**を活用することで効率を落とさずに運行できるのではないかと考え、東山町・兵庫区役所へのアクセスは、商店街の皆様、9系統の沿道の方、婦人会からも強い要望があり、地域の利便性を高めるためには**大型車両通行禁止区域を路線バスのみ通行できるよう挑戦すべき新ルート**と考え提案しました。そして私は、**兵庫県警・建設局とも直接協議**をし、交通局にも情報共有して進めています。交通局からは「**需要・安全・地域合意が整えば新ルートとして検討できる**」との答弁を得ました。

→ **市民の声をもとに、利便性を高める路線づくりを引き続き求めてまいります。**



バス乗務員は休憩のたびに営業所へバスを回送、車両ごと休ませるケースが見られます。これでは「回送ロス」が発生し効率的ではありません。

そこで私は、**バス路線と市営地下鉄駅とが交差する地下鉄の駅構内**に休憩スペースを設け、**バス乗務員交代**を行えば、車両を止めずに効率的な運用が可能になると提案しました。

交通局からも「**バスは休憩させずに走り続けるられる**」「**駅スペース活用は有効**」との答弁があり、**実証的な取組**(旧居留地・大丸前駅にて2・92系統バス)を進めるとの答弁を得ました。

→ **効率化の成功事例を積み重ね、全市的に広げていくことを目指し継続取り組みます。**



湊町線からの東山町の側道

■ 3. 市バス乗務員の「点呼」のあり方について (遠隔点呼の導入提案)

運転前の健康確認や安全指示を行う「点呼」は、これまで対面が原則でしたが、令和4年度以降、遠隔点呼が段階的に解禁されています。

私は、**交通局が持つ地下鉄駅施設を活用して市バス乗務員の遠隔点呼を導入**すれば、

- ・出勤の負担軽減
- ・運行効率の向上
- ・多様な人材確保

につながると**提案**しました。

交通局からは「**安全文化の定着が第一だが、既存拠点から導入を進め、将来的に駅施設などでも検討する**」との前向きな答弁がありました。

→ **働き方改革と効率化を両立させ、市民負担を増やさず経営改善を図るよう求めていきます。**



決算特別委員会質疑の様子

■ 4. 地下鉄駅施設の全体マネジメントについて

市営地下鉄駅には、改札前の空間だけでなく、機械室や職員詰所など多くのスペースがあります。**技術の進歩により一部で余剰スペース**が生じる可能性もあります。

すでに、地下鉄湊川公園駅でマルシン市場出店(マルシンマルシェ)が交通局への質疑を元に実現いたしました。以来、地下鉄駅空間の利活用を以前よりも進言しておりました。

そこで**地下鉄駅空間を全体的に見直し、最適化・集約を進めることで、新たな利活用につなげるべきだと提案**しました。

→ **駅を「移動の場」だけでなく「地域に開かれた空間・滞留空間」として有効活用できるよう、今後も提案していきます。**

是非とも皆様からも本件(市バス・地下鉄)につきまして、ご意見を頂戴できればと思います。

兵庫区における「病児保育」実現へ!

これまで私は、市政の場で「兵庫区に病児保育の設置を」と繰り返し要望してまいりました。病児保育は、子どもが急に熱を出したときなど、保護者が安心して働き続けられるために欠かせない支援です。しかし兵庫区には長らく拠点がなく、保護者の皆さまからも切実なお声をいただきました。

また、こうした子育て環境の整備は、ファミリー世帯の居住促進にも大きく影響する重要な課題です。

その必要性を行政に強く訴え続けるとともに、**地域の医師会**にも直接働きかけを行い、積極的に意見交換を重ねてきました。

その結果、**兵庫区医師会**が中心となり**病児保育実現**へのご尽力のおかげで体制が整いつつあります。

そして2025年度予算に計上され、**兵庫区における病児保育の設置が、具体的に進む段階に入りました！**

2026年4月には、具体的な内容が見えてくる予定です。



病児保育について *神戸市HPより

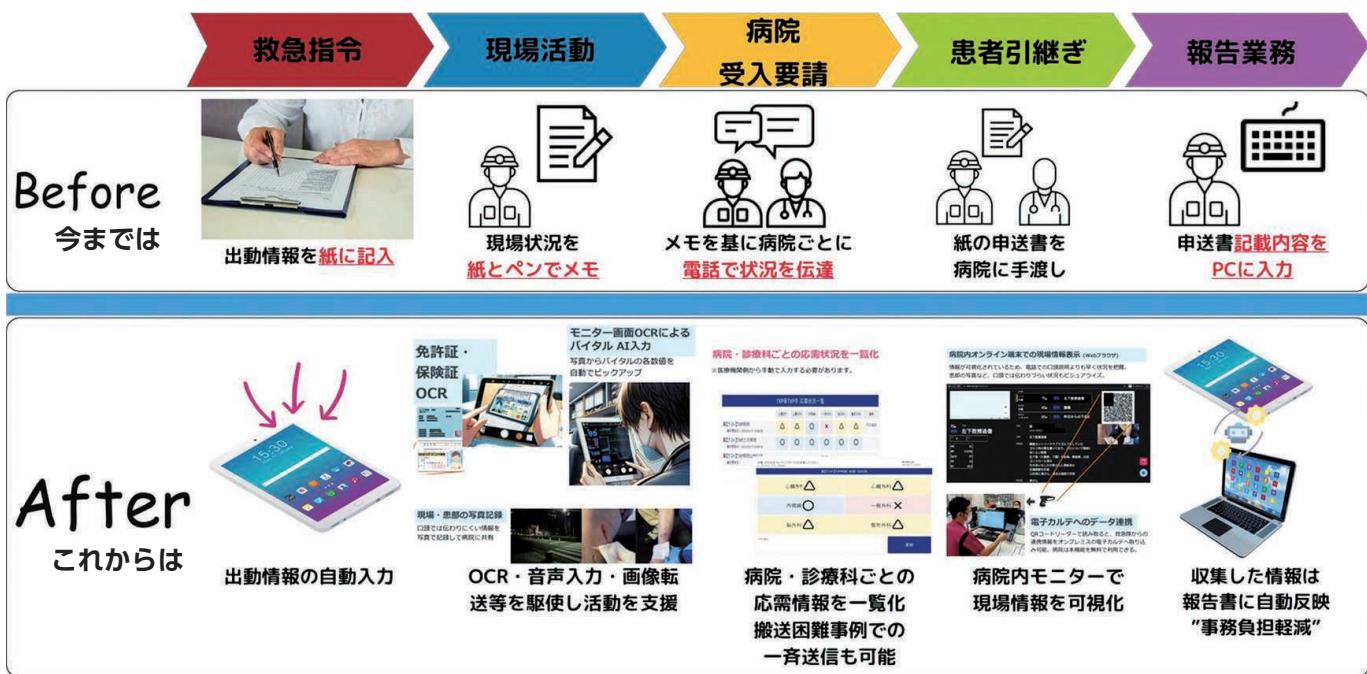
新しい救急情報システムが導入されます！(建設防災委員会より)

神戸市では、救急搬送をよりスムーズに行うために、2026年度から新しい「救急情報システム」が導入されます。これまでの**救急現場**では、搬送先の病院を決める際に、**救急隊が1つずつ病院へ連絡**し、何度も同じ説明を繰り返すケースもありました。そのため、**搬送先が決まりにくい場合、時間がかかる課題**がありました。

新しいシステムでは、患者さんの情報を**複数の2次救急病院へ同時に配信**し、受け入れ可能な病院を素早く把握できます。

- 搬送時間の短縮**
 - 最適な病院を迅速に選定**
 - 病院とのリアルタイム連携**
 - 業務効率化・ペーパーレス化**
- 病院への同時配信で、交渉にかかる時間を削減。現場滞在時間も短縮されます。複数の病院から受け入れ状況を即座に確認し、最も適した病院へ搬送。患者情報を即時共有し、搬送中に受け入れ準備が可能に。救急隊員の負担軽減と、医療従事者の効率向上を実現。

この仕組みによって、搬送先の調整にかかる時間ロスを減らし、一刻を争う救急現場での**救命率向上**に繋がります。



救急情報システムの新旧の違いについて

神戸市会議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじ HP

神戸市会の本会議、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会

データと声で描く、子育て・地域の新しい未来(地域協働局質疑:2025年9月16日) //

兵庫区では、単身者やワンルームの増加による地域担い手不足、子育て世帯の転出、そして自治会の世代交代など大きな課題があります。私は「データ」と「現場の声」を組み合わせ、子育て世帯が安心して暮らし続けられる環境づくりや、新しい担い手を巻き込む地域活動の形を提案しています。他都市の先進事例も参考にしながら、神戸の地域課題を解決し、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

■ 1. データと現場の声を活かした地域づくり

- ・兵庫区は単身世帯やワンルームマンションが急増し、地域活動の担い手不足が課題。
- ・高校生・大学生・社会人・企業など「潜在的に地域に関わりたい人」は存在する。
- ・人口データや人流データを活用し課題を見える化、地域の人々や企業と共有することで、新たな担い手を掘り起こすべき。
- ・データだけでなく、現場を歩き、住民の声を聞き、実感と合わせることが本当に実効性ある施策につながる。

☞ 「データ+現場感覚」で地域の課題を明確にし、若者や新住民を巻き込み、地域を活性化させたい。

データについて

神戸市では、「データラボ」を通じて、市民の皆さんにもオープンデータを公開し、まちの現状を「見える化」しています。また、市職員専用の「データラウンジ」では、行政内部で蓄積されたデータを共有・分析し、より効果的な政策立案に活かそうとしています。

■ 2. 子育て世帯が定着できるまちづくり

- ・兵庫区では「6歳未満の子どもがいる家庭の転出」が突出して多い。
- ・背景には、小児科・病児保育の不足や、ファミリー向け住宅の不足がある。
- ・実際に新築マンションの84.4%がワンルームで、ファミリータイプはわずか15.6%。
- ・若い単身者は増えている一方で、子育て世帯が住み続けにくい状況。

☞ ファミリー層が住み続けられる環境(医療・保育・住宅)を整え、人口流出を防ぎたい。

■ 3. 自治会活動の新しい形の模索

- ・高校生や若い世代が自治会長になるなど、全国で新しい事例が生まれている。
- ・神戸でもこうした先進事例を広げ、自治会の活性化や担い手確保につなげるべき。
- ・「発想の転換」は、他都市での具体的な取り組みや成果を紹介しながら、自然に意識の変化を促していくことが大切だと考えます。

☞ 世代交代や会員不足に悩む自治会を、柔軟なアイデアや外部事例を取り入れて支援したい。

■ 4. 企業との連携で地域に活力を

- ・地元銀行が子ども向けに「キッズマネーアカデミー」を開催したように、企業の地域貢献意識は高まっている。
- ・企業と地域をつなげれば、子ども向けイベントや交流の場が広がり、地域の学びや活力につながる。
- ・行政は受け身でなく、企業へ積極的に働きかけ、連携を広げるべき。

☞ 企業と地域が一緒に地域貢献できる仕組みを、神戸市が主体的に進めるべき。



銀行によるキッズマネーアカデミー

若者の定着と人材育成 - 神戸から未来を切り拓く!(企画調整局質疑:2025年9月11日) //

■ 医療産業都市 × 人材育成

神戸医療産業都市はAI・バイオ・ロボティクスの成長分野で大きな飛躍の時を迎えています。私は、神戸大学(システム情報学部 2025年4月設置)や市立高専(システム情報工学科 2026年度から設置)などと連携し、次世代を担う若者を育て続けることを強く求めています。

■ インターンシップで地元就職!

就職を機に多くの若者が東京へ流出してしまう現状を変えるため、神戸市のインターンシップ事業をさらに拡充すべきだと訴えました。

☞ この事業には専門コーディネーターがつき、学生と企業を丁寧にマッチング!

☞ 企業の負担を減らし、採用のチャンスを広げます。

☞ 特に中小企業こそ活用すれば、次世代人材の確保に直結します。

学生が「神戸にも活躍の場がある」と実感できれば、若者の地元定着、そして人口増加につながります。私は、**神戸の未来を支える仕組み**として、この取り組みをさらに強力に後押ししてまいります。

ご挨拶

最後までお読みいただき、ありがとうございました。日頃より温かいご支援に心より感謝申し上げます。本市政報告では、令和7年9月議会での質疑を中心に、これまでの取組みをまとめました。これからも地域の声に耳を傾け、身近で信頼される市政を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援とご意見をよろしくお願ひいたします。